

県政サポーターアンケートの結果について

1 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和6年5月30日（木曜日）～6月5日（水曜日）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

対象者：県政サポーター（3,329人）

回収率：74.9%（回収数2,495人）

回答者の属性：（百分率表示は、小数点以下第2位を四捨五入したため、個々の比率の合計は、100%にならない場合がある。）

回答者属性

	人数（人）	比率（%）
全体	2,495	100.0%
年齢	人数（人）	比率（%）
16～19歳	15	0.6%
20～29歳	101	4.00%
30～39歳	254	10.2%
40～49歳	478	19.2%
50～59歳	684	27.4%
60～69歳	485	19.4%
70歳以上	478	19.2%
職業	人数（人）	比率（%）
個人事業主・会社経営者（役員）	246	9.9%
家族従業（家業手伝い）	10	0.4%
勤め（全日）	936	37.5%
勤め（パートタイム・アルバイト）	431	17.3%
専業主婦・主夫	359	14.4%
学生	49	2%
その他、無職	464	18.6%
性別	人数（人）	比率（%）
男性	1326	55.1%
女性	1051	43.7%
回答なし	28	1.2%

(2) 調査結果の見方

*設問中の（ ）内の数字及びグラフの中の数字は、回答比率（%）です。

*回答比率 (%)は小数点以下第 2 位を四捨五入したため、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が、100%にならないことがあります。

*図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の比率が 0.05%未満のため、四捨五入の結果 0.0%となったものです。

*グラフの中で「n」とあるのは、その質問の回答者の総数を示し、回答比率は「n」を基数として算出しています。

*複数回答の質問については、その回答比率の合計は、100%を超える場合があります。

調査の目的

埼玉県では、埼玉県地域保健医療計画を策定し、『誰もが安心して自分らしい暮らしができる、多様な方々が共生する社会の構築』の実現に向けて依存症（ギャンブル等依存症）対策や、自殺対策の取組を推進しています。

ギャンブル等依存症と自殺の現状についてご意見を伺い、今後の埼玉県地域保健医療計画の中間見直しに向けて、参考とさせていただくためアンケートを実施しました。

担当課

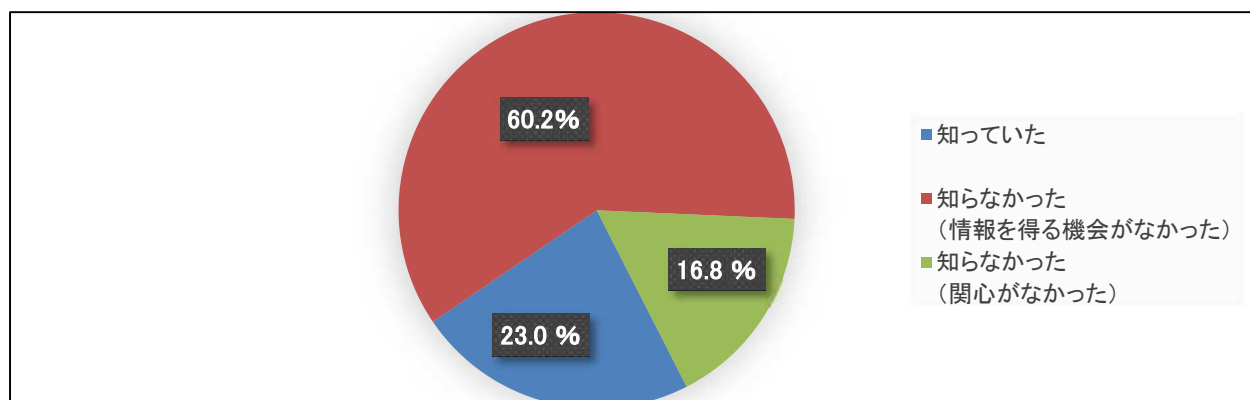
保健医療部疾病対策課 精神保健担当

電話：048-830-3565

(E-mail：a3590-13@pref.saitama.lg.jp)

自殺者数の状況について

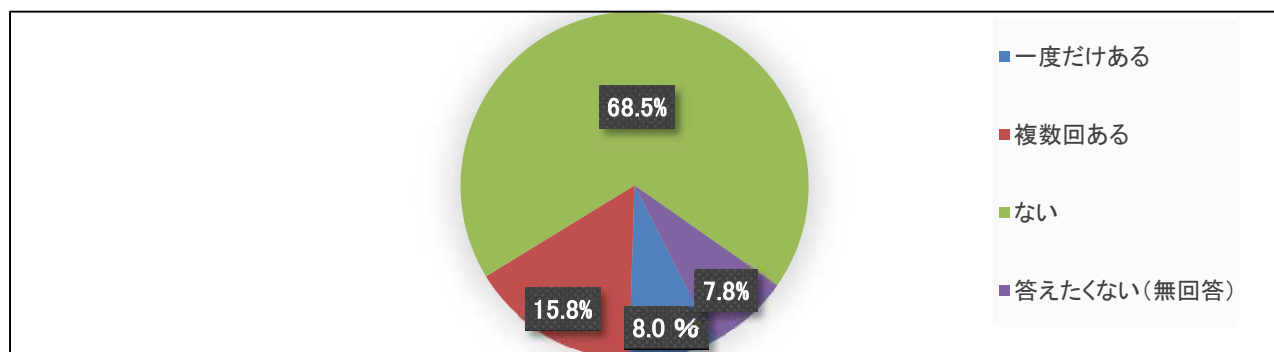
◆質問 7 あなたは、全国や埼玉県でこのように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。（あてはまるもの 1 つ）（n=2,495）



「知っていた」と答えた人の割合は、2割強（23.0%）。「知らなかった」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「情報を得る機会がなかった」と答えた人が6割強（60.2%）、「関心がなかった」と答えた人が1割半ば超（16.8%）でした。

◆質問 8

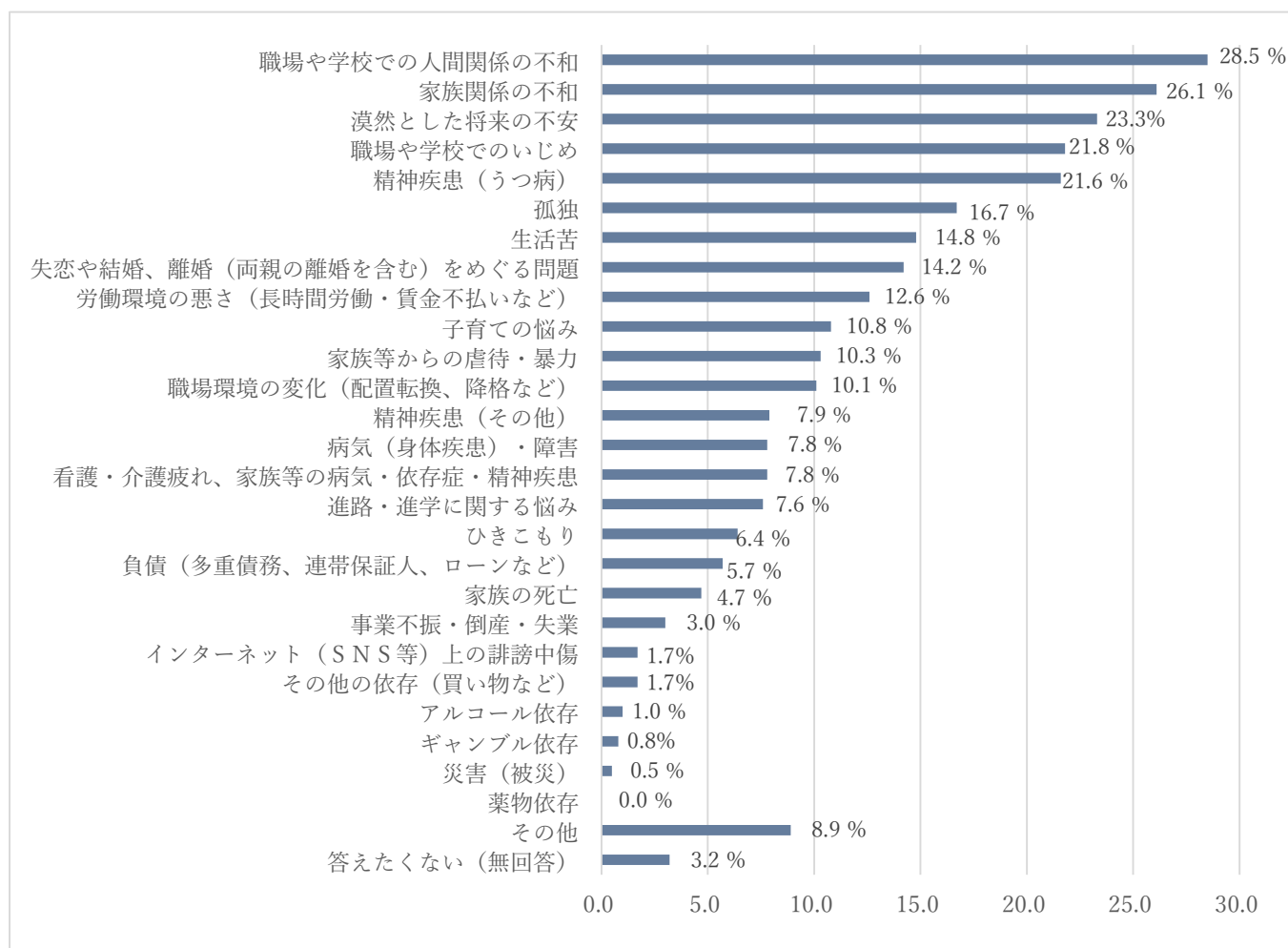
あなたは、今まで本気で自殺したいと考えたことがありますか。(n=2, 495)



→「今まで本気で自殺をしたいと考えたことがありますか」と尋ねたところ、「複数回ある」「一度だけある」と答えた人の合計は2割強 (23.8%)。「ない」と答えた人が7割弱 (68.5%)でした。

◆質問 8(2) (質問 8 で複数回ある、一度だけあると回答した方。n=593)

あなたが自殺をしたいと考えた原因は何ですか。(あてはまるものすべて)

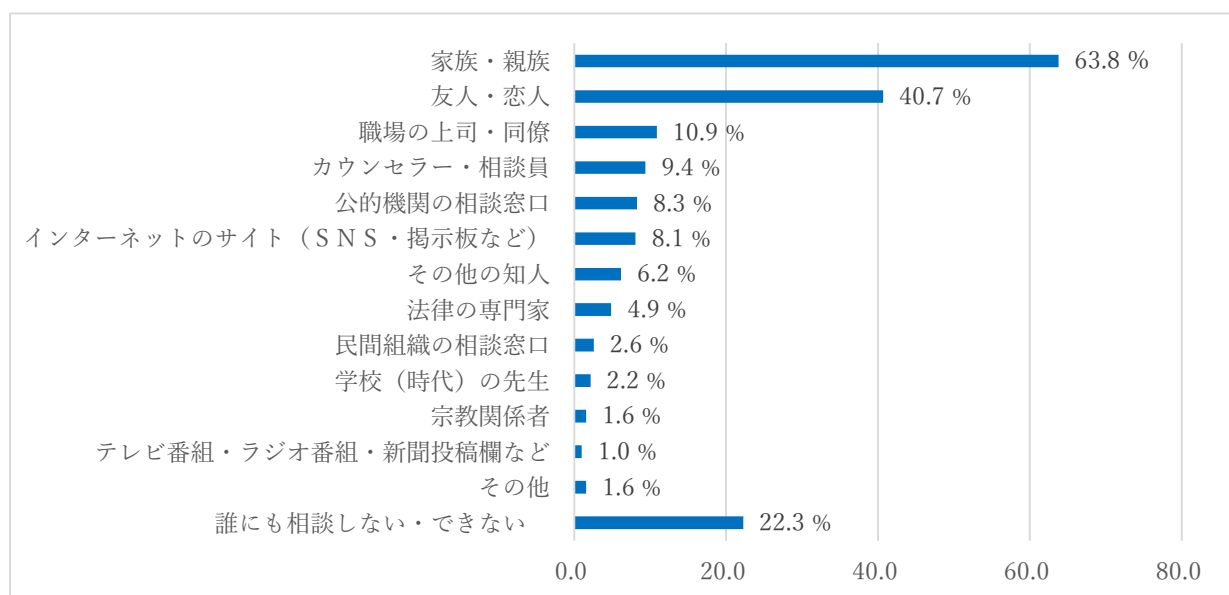


→自殺をしたいと考えた原因について尋ねると (複数回答)、「職場や学校での人間関係の不

和」が3割弱（28.5%）と一番多く、次に「家族関係の不和」が2割半ば超（26.1%）、3番目は「漠然とした将来の不安」が2割強（23.3%）、続いて「職場や学校でのいじめ」が2割強（21.8%）、精神疾患（うつ病）が2割強（21.6%）と以上の項目が20%を超えています。

◆質問9

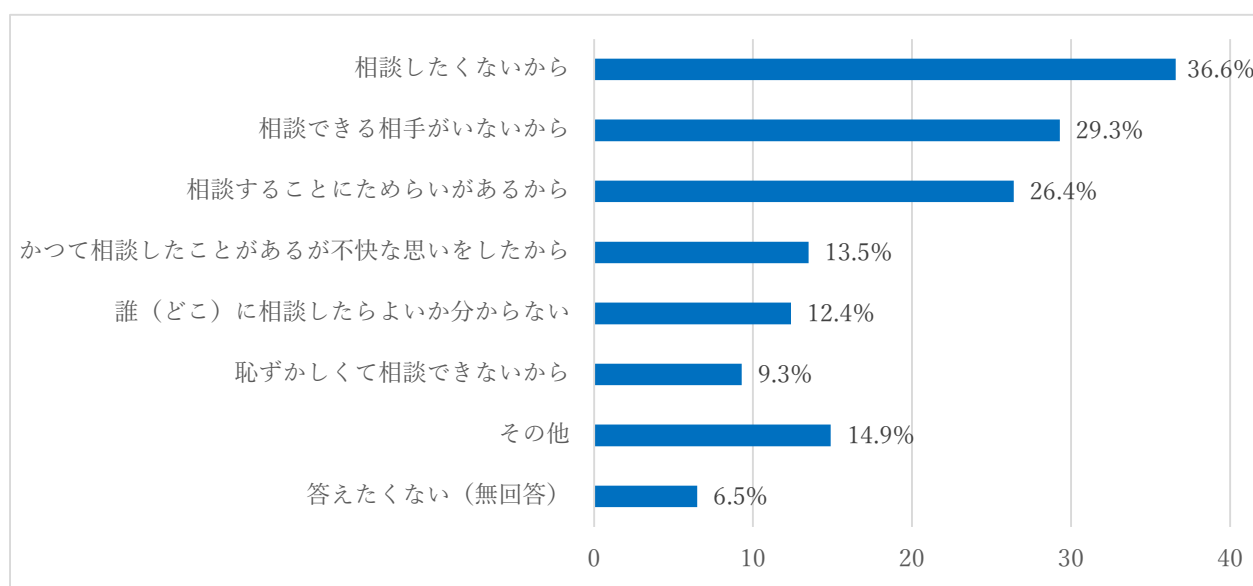
あなたは悩み事があったとき、誰（どこ）に相談しますか。（あてはまるものすべて）
(n=2,495)



→「家族・親族」と答えた人が6割強（63.8%）と一番多く、次に「友人・恋人」が4割強、（40.7%）、3番目が「誰にも相談しない・できない」2割強（22.3%）でした。

◆質問9（2）（質問9で「誰にも相談しない・できない」と回答した方。n=557）

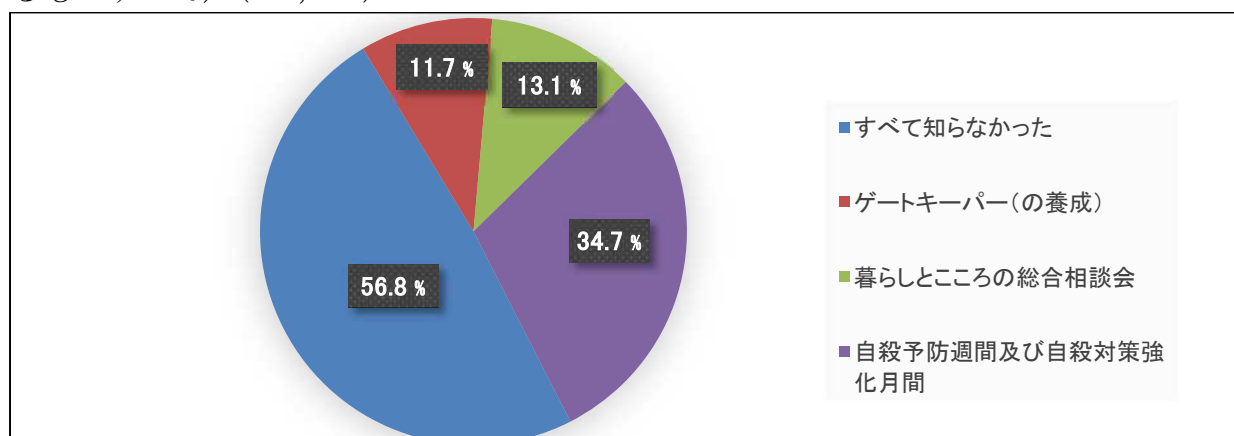
「誰にも相談しない・できない」その理由は何ですか。



→「相談したくないから」と答えた人が3割半ば超（36.6%）と一番多く、次に「相談できる相手がいらないから」が3割弱（29.3%）、3番目が「相談すること自体にためらいがあるから」2割半ば超（26.4%）でした。

◆質問 10

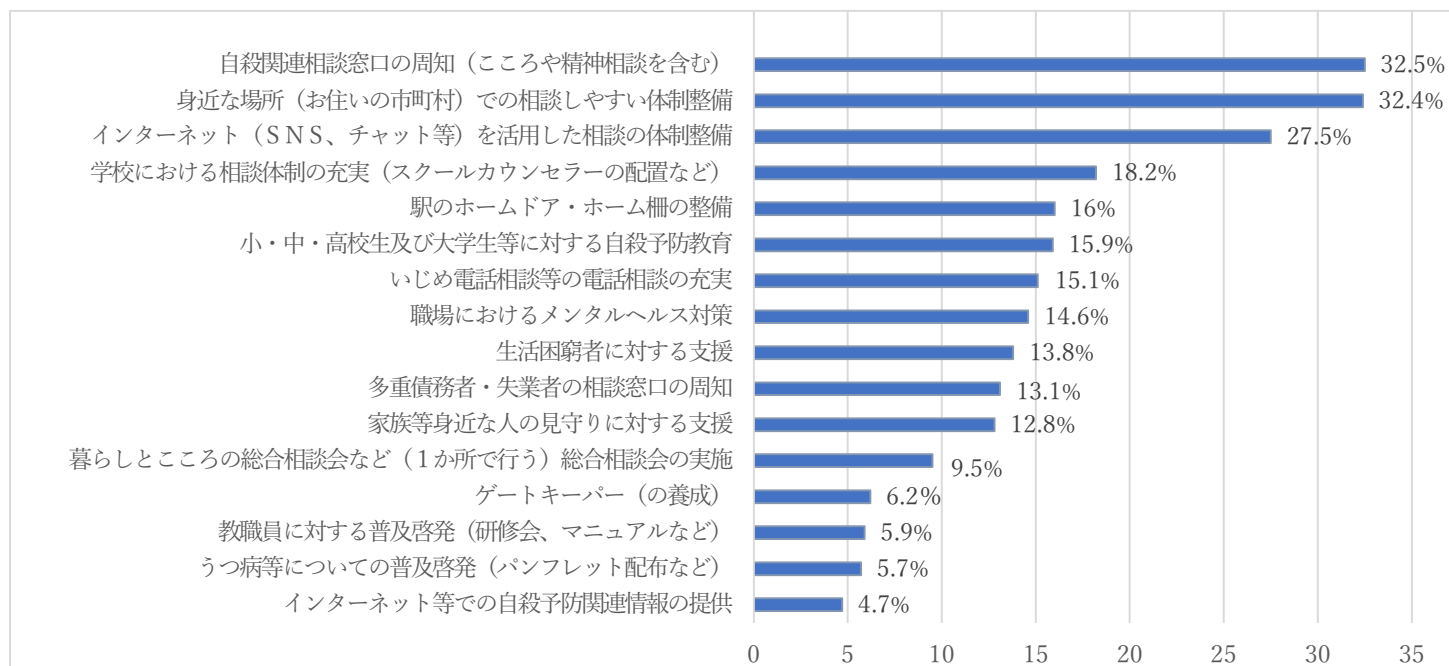
県が実施している自殺対策の中であなたが知っているものを教えてください。（あてはまるものすべて）（n=2,495）



→「県が実施している自殺対策の中で9月の「自殺予防週間」及び3月の「自殺対策強化月間」の普及啓発、「暮らしとこころの総合相談会」やゲートキーパー（の養成）を行っていることについて知っていますか」と尋ねたところ、「すべて知らなかった」と答えた人が5割半ば超（56.8%）でした。

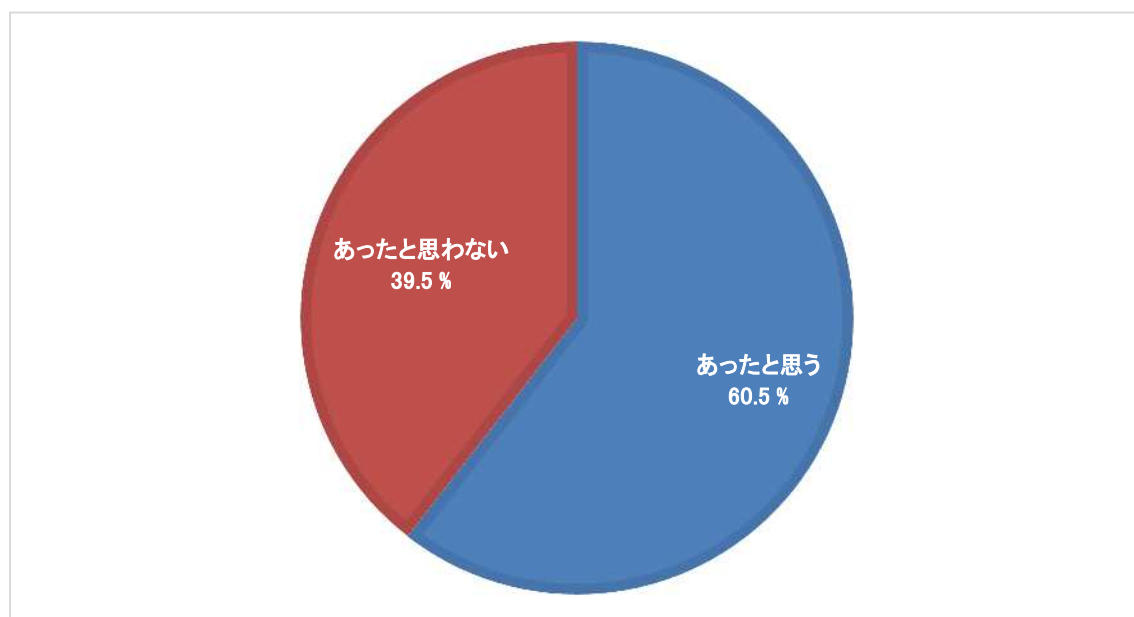
◆質問 11

あなたが、自殺予防対策として効果的だと思うものは何ですか。（あてはまるもの3つまで）（n=2,495）



→最も効果的な対策に「相談窓口の周知」と答えた人が3割強（32.5%）、ほぼ同じで「身近な場所（地元市町村）での相談しやすい体制整備」が3割強（32.4%）、3番目が「インターネット（SNS、チャット等）相談の体制整備」2割半ば超（27.5%）でした。

◆質問12 自殺予防対策に対し、新型コロナウイルス感染症拡大による悪影響はあったと考えますか。（例：失業などの経済的な不安、行動規制等による孤立孤独感の増加など n=2,495）



→自殺予防対策に対し、新型コロナウイルス感染症拡大による悪影響はあったと思うと回答した人が6割強（60.5%）でした。

質問12（自由記載回答数…753件）

また、埼玉県の実自殺対策に対して期待することやご意見、ご要望などありましたら、自由にお書きください。

主なものを原文のまま記載してあります。

【経済関連】

- ・失業等による生活困窮等。
- ・経済的な困窮、人と関わらないことでの孤独感の高まり、漠然とした不安。
駅のホームドア設置をもっと増やして欲しい。
（朝霞台駅、北朝霞駅は利用者数が多いのにホームドアがなく心配）
- ・失業などの経済的な不安、行動規制等による孤立孤独感の増加、インターネットを活用した授業や仕事勤務等が進んだことにより人間関係の構築ができない人が増えたのではないかな。
- ・県の自殺対策が身近に感じられない。市町村規模では予算や人材等で対策充実が難しいこともあると思うので、支援をして欲しい。国を挙げて自殺対策をするのならば、例えば電車

のホームにホームドアを設置するなど費用が対策推進の壁になっているものについては、国が費用負担をしてでも進めるべきではないかと思います。

・経済的、精神的な不安が大きくなったと思う。人に合わないことにより、ひとりで考え込むことにつながったと思う。また、インターネットを使う時間が増え、攻撃を受けたり、ネガティブな検索をしてしまったりしたのではないかな。

学校以外の子ども対応できる相談員がいる場所を増やし、その情報を子どもに広めてほしい。あいぱれっとはそういった場所であるが、悩みを持った子ども達にあまり知られていないと思う。必要な人に届くような広報の方法を考えていただきたい。

・コロナによる失業、倒産の結果経済苦になったための自殺。

物価上昇、円安、企業収入の減少により、給与額の減少により、住宅ローンや借金の返済ができなくなったための自殺。

高齢者の孤立、孤独による自殺（特に男性）。

高齢者の年金の金額が少ないことによる経済的貧困による自殺。

・（自殺対策）自殺対策をどこが行っているかさっぱりわからない。

郵便ポストに定期的に自殺抑止のためのチラシなどを入れて、相談窓口を紹介する。

経済的貧困者の生活保護の認定の必要性。

子どもの自殺防止のための学校での教育、通知。

電車への飛び込み防止のため、鉄道会社への自殺防止ポスターの設置、相談窓口の案内ポスターなどの設置の依頼。

埼玉県、市町村のホームページのトップページでの自殺防止の相談窓口の案内。

・コロナウイルスの感染状況がこの先どれくらい続くか分からない中で、業種によっては休業せざるを得ない業種もあって、経済状況が厳しい方などが総悲観となって思わぬ方向に向かってしまったということはあるように思います。あの時期、あまりにも世間一般に不穏な空気が醸成され過ぎた感があります。経済支援と心理的な支援の双方が必要だったように思います。

埼玉県に対しては、悩み事を相談できる機関があることをまず広めて頂きたいです。そして、打ち明けた方には親身になって欲しいです。お役所の縦割りではなく、横の繋がりをもって支援があると良いと思います。自死を選んでしまう方は、責任感が強く誰かを頼ることができない真面目な方が多いように思います。まずは、行政の機関を頼っても大丈夫だというアピールがとても大事だと感じます。そして、埼玉県が頼りにしても大丈夫なところであって欲しいです。

・コロナの際に、失業や給料、ボーナスの減少で精神的に追い詰められる人がいたと思います。

自殺対策は、特に未成年の自殺について期待しています。未成年の自殺はいじめ問題も大いに関係していると考えています。いじめがあった際、被害者のフォローを優先は当たり前ではありますが、加害者の原因追及が不足していると考えます。人間ですから、相性の問題はあるとは思いますが、大半の人間は相性が合わないからといって、暴行や誹謗中傷はしません。加害者はなぜいじめをしてしまうのか、をしっかりとカウンセリングが必要かと考

えます。未成年ではいじめの一言ですが、成人すれば、恐喝、暴行、誹謗中傷等となります。困難だとは思いますが、未成年のうちにしっかりと、他者をいじめてしまう精神状態へのケアやアプローチが必要ではないでしょうか。

また、警察も巻き込んで、いじめは暴行等犯罪にも該当する可能性もはっきりと明示した方がよいと考えます。未成年者の世界は狭く、考えが至らない事も多い為、なぜいじめてしまうのか等の加害者へのカウンセリング等のアプローチを期待しています。

【相談窓口関連】

- ・会話・対話の機会がなくなることはまさに「生命線」なのだと思います。

自殺対策のキープポイントも、そこ（会話・対話の機会）だと思います。

- ・社交不安障害のある友だちがインターネット上の相談窓口に接続しても混雑で通話できないとのことです。窓口の拡充をお願いします。

職場でのメンタルヘルスはだんだん改善されていると思いますが、主婦や雇用主などがメンタルヘルスの問題に気づき相談する機会が少ないと感じます。

悩んでいる人や精神疾患のある方とどう接すればいいかも周知してほしいです。

また子どもの自殺は学校での画一的な評価や閉鎖的な人間関係が原因ではないでしょうか。何かあればフリースクールに通えるなどの選択肢が持てるよう、フリースクールやオンライン教材を増やしたり。教員の待遇改善によるいじめの早期発見・対策を心から願います。

- ・孤立化が最も良くないことなので、相談窓口だけでなく、他のコミュニティでの交流を行えることが大切。

自殺やギャンブル、多重債務などのワードがあると敷居が高く、なかなか相談に踏み込めない人もいらっしゃるのではないかと。

- ・いじめ等による子ども達の命を守るためには、学校関係者や教師以外の外部職員による校内相談窓口の徹底。相談員は無理かとは思いますが、複数人居たほうが情報の調査、整理、共有と真実を見極められ、子どもに寄り添えるかと思っています。

- ・今まで普通にできていたことができなくなり、生活が大きく変化した時に心が折れることがあると思います。私は家族が亡くなった時、自分が死んだらどうなるのだろうという、初めて自分の死のことを考えました。近くに励ましてくれる家族がいたから良かったですが、きっと辛い思いをした方もたくさんいたと思います。サポートやケアができるシステムがあると良いですね。

- ・孤立孤独感の増加と同時に相談できる機会も少なくなった。人との交流がなくなり、気づいてくれる機会も少なくなった。

【教育関連】

- ・学校（小中高）が登校停止となりオンライン教育化され対面指導できなくなった。又、学校行事が中止（規模縮小）となり人と接する機会を奪われた。

- ・若い人たちの自殺を減らすために、学校での対策が必要だと思います。

自殺予防教育も大事とは思いますが、先生方がゲートキーパーとしての知識を身につけ、そ

れを実践することがいっそう求められます

- ・経験のない非常事態で、価値観の急激な変化、終わりの見えない不安感、相談したくても人に会えないなど、誰もが不安でいっぱいでした。

不安を訴えたくても、どこに何を相談できるか情報を得られない人こそ、本当に困ってる人だと思います。

アウトリーチをすすめながら、自殺予防の推進を願います。

- ・とにかく不安な要素がありすぎて、世の中の変化についていけない。孤独感や、喪失感、恐怖心、猜疑心を感じていたと思う。相談しても解決出来ない問題に直面したら、自死という選択肢を考えてしまうかもしれない。

自殺の対策は、それぞれ要因が違うため、これといった解決策は思いあたらないが、他者とのコミュニケーションで不安を解消したり、自分だけが悩んでいる訳では無いと気付いたり、予期せぬ手助けを受けられたりすると思う。1人て思い詰めることが自殺の大きな要因だと思うので、他者と関わりを持てるようにするべきだと思う。